慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	三田文学会大会
Sub Title	
Author	
Publisher	三田学会
Publication year	1910
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.4, No.6 (1910. 12) ,p.735(131)- 736(132)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	三田学会記事
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19101200-0131

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

るに至れり、之れ實に最近「ランプレヒト」教授の Königlich Sächsische Institut のよりて生ぜし所以と存候（Prof. Lamprecht, historische Methode u. historische akademische Unterrichts u. Die Woche Heft 45 參照）又た伯林大學の「ブライシヒ」教授の人類史の如き著想は甚だよきも、Halfarbeit に終るものにあらずやと疑ふ者に候。

之れに反して日本に於ける史學は其研究の方法にして宜しきを得ば、極めて有望なる將來を有するものと存候、若夫れ日本史學の將來に就きては小生多少信ずる處有之、歸來諸君の前に自己の管見を述べて御批評を乞ふ覺悟に候。

日本の如き新進の學術國に於て、必要なるものは、職場の功名者にあらずして、寧ろ職場の犧牲者に有之候、不肖、生が如きもの既に日露の職役に於て死ず可き身なり、餘命を今日に全ふするは之れ天の賜なり、余は此一事を回想する毎に感慨の念、胸に充つるを覺ゆ、希くば餘命のあらん限り、日本に於ける着實なる史風の犧牲者となり、後援者となりて研究に從事致度存候。

美しき事業の下には常に協力の精神存す、我徒四千の師弟心を一にして、塾長を助け、日本の慶應義塾をして更に世界の慶應義塾たらしめざる可からずと存候。

遠く離れて祖國の現狀を觀察すれば、實際の政策に於て、果た思想上の傾向に於て多く論ず可きもの有之候、只だ讀む可き書の多くして、月日の經過し易きこと眞に人生の一大恨事に有之候遙かに諸君の御健康を祈る（十月廿五日伯林にて）

新著紹介

The Political History fo England

Edited by W. Hunt and R. L. Poole.

九百五年に初めて第十冊を公にしたる本書は去る九月第六冊の發行と共に漸く完結したる。統計十二冊何れも專門史家の筆に成れるものなれば、今後少くも數十年間は英國史のオッソリチーとして推稱さるゝならん、每冊詳細なる書史を揭げ地圖系圖附表を添え目錄は年表體につくり且索引をも附しあれば參考書としては先づ以て申分なし。否參考書として有益なるのみか、概してリーダブルなれば、英國史に趣味を有する人は一部を書齋に備ふ可し、發行書肆ロングマンスグリーン會社は本年中は豫約直段にて發賣す可しとのことなり。

本書は或點より見ればケムブリッヂ大學同人の事業と目す可き近世史に對する牛津大學出身者の事業とも見做す可く、編輯主任、ハント氏は王立史學會々長にして曾て牛津に教鞭を執り、レーン、プール氏は同大學に於て古文書學を講じつゝあり尤も第二冊はエールのアダムス教授の筆に成れどその他の寄稿者は殆んど牛津大學に於て史學を修めたるものゝみなりと云ふも不可なし。ハント氏は第十冊を同大學近世史教授オーマン氏は第四冊を著はし又、第六冊を起稿せるボラード教授、第七冊を執筆せるモンテーゲ教授は、共に余が倫敦なるユニヴシチーカレージに於て教を受けたる恩師なるが、何れも牛津大學出なり、ボラード教授にはヘンリ八世之傳、近世史之要素等の傑作ありモンテーグ教授の英國憲法史は簡單にして能くその要を得たり第一冊の著者ホッジキン氏は倫敦なるユニヴシチー、カレージの出身なるが、伊太利入寇史の大作は夙に史學界に名聲を高くし、千六十六年以前の英國史の選述は實にその最も得意とする所なり、第十二冊女王ヴィクトーリア治世史の著者シドニー、ロー氏は政論家として世に知られ、スタンダード紙上に數ば健筆を振へり。その筆端時に保守黨の爲にするが如きの嫌なきにあらねどハーバートポール氏の近世英國史の自由黨贔負の如く甚しからず、マッカーシーの現代史の逸事的なるに滿足せざる人にはこのシドニー、ロー氏の書を薦むるを得ん。その他マンチエスター大學のツート教授は第三冊を牛津の講師フイッシヤー氏は第五冊をエヂンバラのロッジ教授は第八冊を牛津のレダム氏は第九冊を牛津マートンカレージ院長故ブロードリック氏は第十一冊を著し、リンガード英國史發行以後八十年にして、この英國政治史は完結せり、而して題して政治史と云ふも、宗教、學藝、經濟、社會等に關する事件の發展を等閑視せるにはあらず、唯政治上の現象に重きを置けるのみ。（田中萃一郎）

三田學會記事

三田文學會大會

三田文學會秋期講演大會は十一月廿四日午後一時より慶應義塾大

學三十二番講堂に於て開催せられ教授川合貞一氏の開會之辭に次ぎ教授小山内薰氏は『無題』と題し藝術と變化、傳人と藝術等の問題に就て其感想を述べられ次に生田長江氏は『批評と創作』なる題下に藝術と人生との關係より説起し藝術の意義及び其獨立等の問題より批評論に入り眞に作物の價値を知り得る批評家はこれ又其作家たり得るの資格あるものなりと述べ批評最後の標的は創作を全然超越する所に至るにあり批評の尊嚴は又實に茲に存すと結ばれたり次に教授戸川秋骨氏は『古典文學と現代文學』と題し文學の基礎を古典文學に取らんか將た又現代文學に取らんとするかは此迄絶えざる所の論爭なるが然し一方のみを尊重して他方を排斥せんとするは共に其言緊を得たるものに非ずとの前提より近代文學は科學を基礎とする近代社會の產物なるを以て直に斥くるは誤れり然し吾人は生慾問題、生活問題等を取扱ふ近代文學のみにては滿足することを得ず卽ち古典文學も必要なるものなり是れ恰も近代文學は滋養物の如きものにして古典文學は常食の如きものなり故に此兩者は共に必要なるものなりと述べ されど吾人は現代に生き居るものなるを以て現代の文學を主として進むは最も其宜を得たるものなるべしと結ばれたり最後に文科顧問上田敏氏は『新時代の詩人』と題し新人と當人との區別より説起して新藝術の意義特色に及びそれより歐洲思潮の集合地にしてマーテルリンクローデンバック、レルベルグ等の天才を輩出せるベルヂツクの文學に移り更にワロン文學の代表者たる一代の詩人エミールベルハーレンに就て彼が生立ちより今日に至る迄の經歷、作物等一々詳述せられ一方肉慾的なると共に他方頗る神祕的なる彼が詩は眞く其國民性を代表せるものなるが社會問題、生活問題を記載せざに非ずして感嘆したる彼の詩も亦實に彼が半生の憐憫たる努力の結果に外ならずと結ばれ教授馬場狐蝶氏の挨拶ありて五時半頃散會したりき因に當日は鎌田塾長を初め田中一貞、永井荷風、神戸彌作、廣瀨青波、小林乳木、澤木梢、與謝野鐵幹諸氏以下學生六百餘名の出席ありて非常の盛會を極めたり（お、あ）

三田史學會例會

同會第六回例會は去月廿九日午後二時半より慶應義塾大學廿四番講堂に於て開催せられ教授田中萃一郎氏の挨拶に次ぎ教授幸田成友氏は『日本版刻術の進歩に就て』と題し多年蓄積せる材料を持參せられて先づ日本人の出版せる古書目錄より説起し世界最古の印刷物たる法隆寺百萬塔中に藏せる經文を引き凡て各國古代の印刷物は宗教に關するものなりと述べ更に書籍發達の變遷に就き源平及び鎌倉時代の野山版、春日版、南北朝の五山版、境に於ける經書（承平十八年）醫書（天文年間）の覆刻、文祿役以來活字輸入後に於ける書籍刊行等の事より娯樂的出版物の發達に移り鎌倉時代以後の繪卷物、足利時代の御伽草子、德川時代の奈良繪本、公平本（きびら）、好色本、淨瑠璃本、芝居番附、役者評判記、赤本、黑本、黃表紙本、黑表紙本、コンニヤク本、等一々實物によりて説明せられ最後に暦、職員錄の沿革を述べて降壇せられ、それより小澤君（琉球に就て）稻垣教授（歐洲各國民の心性）の講演ある筈なりしも時間の都合上次會に延期したり、尙當日は福田博士を初め學生多數の出席ありて盛會なりき（お、あ）